

学習コンテンツ 利用の手引き

コンテンツタイトル スパイウェアに気をつけよう

対象 高校生

学習のねらい スパイウェアの存在とその対処方法について知る。
インターネット上からの安易なソフトウェア利用を差し控える。

学校で指導する際の学習展開例

	生徒の学習活動とスライド等の番号	指導上の留意点
導 入	○スライド１～９ ・具体的な事例について、登場人物になった気持ちで見る。 ・事例にあるＰＣの症状の原因は何であるかについて検討させる。	・インターネットの仕組みと関連付けて、どのような場面でどのような可能性があるかについて考えさせる。
展 開	○スライド１０～１２ ・スパイウェアとは何か、また、どんなことを行うかについて知る。 ・それぞれの具体的な症状と、スパイウェアが行っていることやスパイウェアの目的との関係について考える。 ○スライド１３～１７ ・スパイウェアの種類を知るとともに、いろいろなマルウェア（不正ソフトウェア）に関する情報を調べる。 ・スパイウェアとコンピュータウィルスとの違いについて知る。 ○スライド１８～２１ ・スパイウェアがどのような経路で侵入してくるのかについて知識を深める。 ・スパイウェアの駆除ソフトについて調べる。 ・スパイウェアの侵入を未然に防ぐ方法について調べる。	・各々のパソコンの症状について、一つずつ時間をかけて考えさせる。 ・それぞれの症状から、どのようなことが読み取れるか、生徒の実態に応じて、ヒントを与えながら説明していく。 ・インターネット等を活用して、ここで挙げられている以外のスパイウェアやいろいろなマルウェア（不正ソフトウェア）について調べさせ、最近の状況について理解させる。 ・インターネット等を活用して、スパイウェアの駆除や防止に関する情報を調べさせる。時間的な余裕があれば、ワープロの文書にまとめさせる。
ま と め	・学習したことを、今後の自分にどのように生かしていくかについて考える。	・学習で感じたことを数名の生徒に発表させ、共通認識をもたせる。

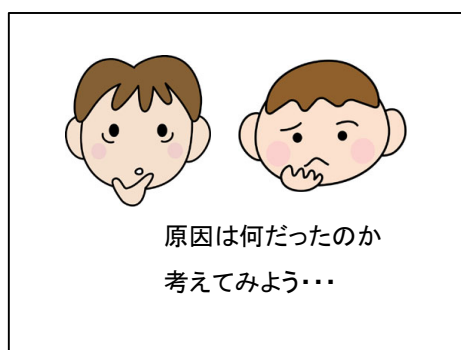
コンテンツに必要な環境

掲示用パソコン（Windows）、Microsoft Office Power Point 2003
プロジェクタ、スクリーン

学習コンテンツの解説

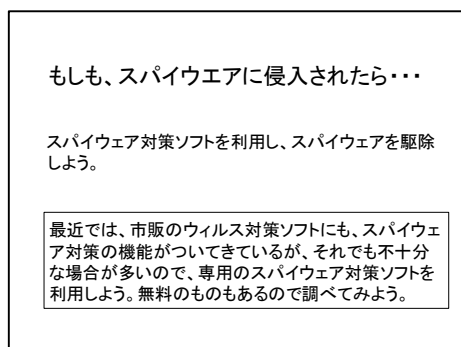
初期の頃流行したコンピュータウィルスは、感染したPCにいたずらをしたり、PCのデータを破壊したりするものであった。しかし、今日の脅威はもっと深刻化している。特定のサイトを攻撃しサーバーをダウンするもの、金銭窃取を狙ったものなど、狡猾で悪質なものが増え、単にウィルスという範疇にとどまらない、多種多様の不正プログラム（いわゆるマルウェア）が横行している。

本コンテンツでは、それらの中からスパイウェアについて取り上げ、具体的な事例をもとに、その危険性、対策法について学習し、セキュリティに対する意識の向上を目指したい。



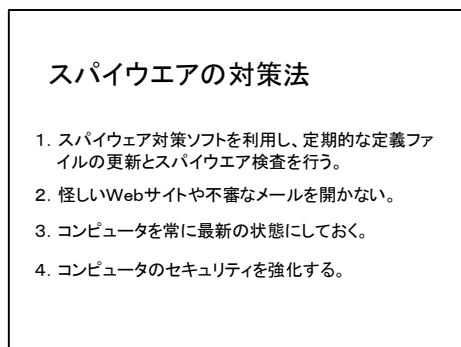
スライド9

スパイウェアは、一般的にはインターネットからダウンロードできるフリーウェアなどに多く含まれており、インストールするとユーザの知らない間にPCに組み込まれる。特に、インストール時にインターネットにアクセスするものは危険性が高い。



スライド19

スパイウェア対策ソフトの多くは、ブラウザ設定の変化を検出する機能が提供されているので、それらの機能を利用すると、早期に発見することができる。非常に複雑な場合が多く、手動ではなく、ソフトウェアでの除去が必要となる。



スライド20

内容の3、4については、OS、ブラウザなどの修正更新プログラムの導入やアップデート、ブラウザのゾーンやクッキー、制限サイトなどセキュリティの設定方法などに関する知識が必要となる。また、パーソナルファイアーウォールソフトの利用も有効である。

参考URL 「パソコンユーザのためのスパイウェア対策5箇条」

<http://www.ipa.go.jp/security/antivirus/spyware5kajyou.html>